

# 彩の合気

編集発行  
埼玉県合気道連盟

埼玉県合気道連盟機関誌NO. 23

## 「2008年 年頭において」

埼玉県合気道連盟  
理事長 林 昭男



最近は、その基本の部分を経んじる傾向がある。すぐにパフォーマンスに走りすぎる。人より目立ちたいという部分が強すぎはしないだろうか？実力をつける為の努力を怠ってはいないだろうか？

合気道を建物で例えるならば、基本技が柱であり、自由技が床や壁などである。柱がしっかりしていなければ建物は建たず、床や壁が単純ならばつまらないものになってしまう。基本技をしっかり学び、自由技を練習する事で、個人個人が持っている特性・個性を伸ばし、「らしさ」を発揮し、より高い段階にステップアップ出来るのではないだろうか？

その基本をいかに正確に伝えていく事が、長く合気道をしている者の務めだと思っている。

還暦を過ぎ、子供達、後輩を指導するにあたり、「育てる」「基本を伝える」に重点を置き、且つ自分の合気道を模索している。

戦後60年が過ぎ、少しずつ箍が緩み、だいぶ中心軸がぶれた日本になった。そして去年の事を漢字一字で表すと「偽」という事だった。その対極の漢字は「真」「信」「正」であるように思う。合気道においてはどうか？

本物を目指して、努力し、励む。しかし、ただ闇雲に行えば良いというものではない。基本をきっちりと身につける為には何百回、何千回、何万回と続けて稽古する事が大切である。

## 道場紹介

深谷合気会 中沢孝之

私達深谷合気会は代表者である本橋先生の指導の下、埼玉県深谷市内に在る深谷市総合体育館：深谷ビクトール内の柔道場で週二回稽古を行っています。深谷市は熊谷市の隣に位置しており盆地という土地柄である事から夏は記録的な最高気温になるくらい暑くなる事もあり、冬は逆に冷たい風が吹いて寒くなります。が、毎回道場ではいつも老若男女を問わず明るく和気あいあいとした雰囲気の中で稽古をしています。稽古時間は準備運動や受身の稽古を約30分行った後、1時間技の稽古をし、1時間半で一旦締めます。そして、その後30分を好きに使って上手になりたい技を稽古したり、先生に直接質問をしていろいろな技を習ったりとみんな非常に熱心に稽古に励んでいます。稽古内容としましては、四方投げ等の基本技や入り身等の体捌きを中心に稽古をしています。また、会員には様々な方がおりますのでお互いの力がぶつからない様に、お互いが気持ち良く投げられるように心掛けて稽

古をしています。普段の稽古以外には毎年夏季に恒例の一泊二日の夏合宿を行っています。合宿では普段と違う場所で稽古をすることによっていい緊張感を持って稽古に臨む事が出来ます。また、参加者一人一人の演武をビデオに録画して後でチェックしたりと普段の稽古では出来ない事をするため大変練習になります。それと合宿では稽古をするだけではなく、イベントとしてバーベキュー等をする事で少し気分を変えて会員同士のコミュニケーションを図ったりしています。他には毎年二回春季と秋季に初心者合気道教室を開催しています。そこから合気道に興味を持たれて本格的に続けられる方もいらっしゃいます。私も初心者合気道教室からスタートしました。さらには深谷市主催のレクリエーションフェアに参加して演武を披露させていただいたりと広く合気道を知ってもらう様に活動を続けています。

### 埼玉県合気道連盟 行事予定

実施予定月	事業内容	会場
4月13日(日)	第23回埼玉連盟少年錬成会 13:00~15:00	さいたま市大宮武道館
5月24日(土)	第46回全日本合気道演武大会 12:00~	日本武道館
5月31日(土)	第26回埼玉県合気道連盟定期総会 18:00~	さいたま市民会館うらわ
7月6日(日)	第26回埼玉連盟合同講習会 14:00~16:00 講師：合気道道主 植芝守央先生	所沢市民武道館

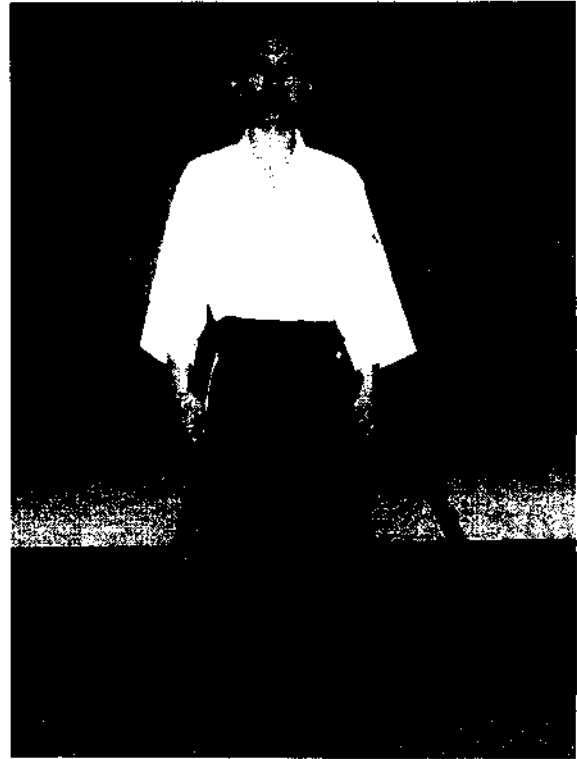
## 道 縁

浦和合気会 吉田一品

旧浦和市、そしてさいたま市に住んで15年目。いつの間にか郷里で育った日月を越えようとしています。東京近郊に位置して転入者の多いこの街に「さいたま都民」の一人として職場と家庭を往復するだけの生活に終始する限りは、他郷の出身である私にとって、何年経っても地元との関わりが薄くて顔の見えないところでもありました。

その関わりをつけてくれたのが合気道です。浦和合気会は会員数60名を越える大所帯ですが、大半がさいたま市内とその周辺に住まわれる方々です。少年部との合同稽古もあって、学童から高齢者まで幅広い年齢層とのふれあいから、地域に暮らす人々の顔が見えてきます。性別や年齢、職業そして生活経験の異なる会友との稽古を通して少なからず啓発され、また人の優しさを感じるがあります。長くよそよそしさのぬぐえなかった街並みにも、顔知る人達の息吹をじかに感じて、ようやくと慣れ親しめるようになりました。そうして私自身の視点も心の持ちようでも変わることを知りました。

道縁一稽古を始めてから知る言葉です。現在、国内は及ばず海外約90カ国に普及し、160万人が合気道を学んでいるという事実はなかなか想像が付きませんが、この同心円に私も重なる者かと思えば、道縁のめぐり合わせに不思議



を感じます。

合気道が現代に生きる私達に国の内外を問わず、年齢に応じた生き方と進歩をもたらすものとして働くのは、武産と称される斯道そのものが持つ生命力に由来するからでしょう。生命力の源泉を感じさせる合気道に縁を結んでゆくことは、奔命に疲れる日々の生活にあっても己の拠って立つところを得ることではないかと思えます。

稽古後に訪れる充足のひと時に合気道を楽しめることの有り難さを噛みしめながら、これをより多くの方と分かち合うことができれば、昨今の殺伐たる世相も少しは変わるのでは、と願う次第です。

## 私と合気道

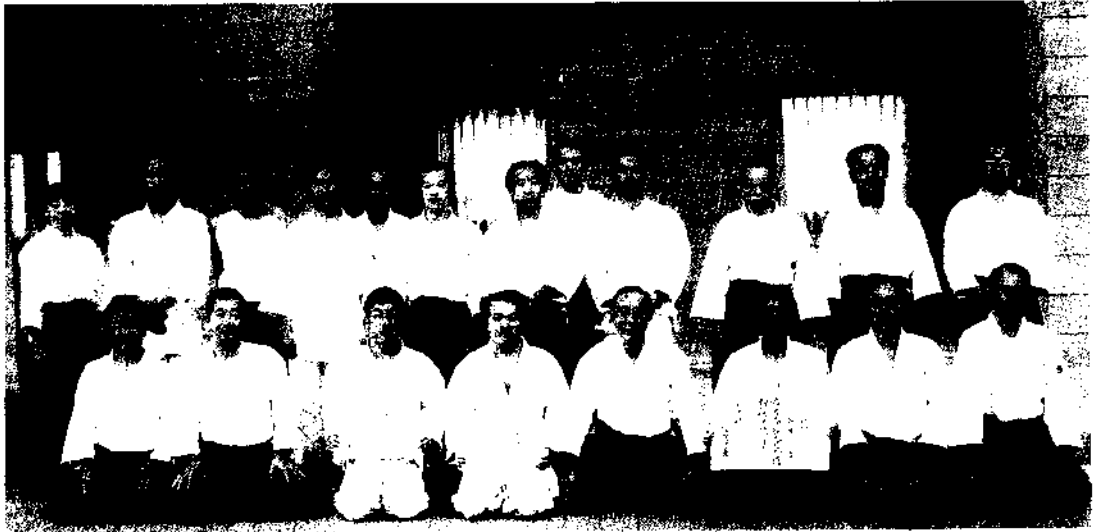
久喜合気道同好会 新井慎吾

自分自身は体を動かす事が好きでした。日頃の仕事は事務職ですのでデスクに居る時間が大半ですから、余りにも体を動かす機会が有りませんでした。年齢も五十五才を過ぎ時々膝と腰に痛みが出る様になり、朝早めに起きラジオ体操で体調を整え始めたころ久喜市

の合気道教室の講習会が記載された広報です。袴姿の写真に興味を湧き、急いで電話し教室に入らせて頂き体育館三階

の武道場に行きますと、約三十名の参加者が各々の運動服姿で緊張した趣で整列していました。指導される先生の袴姿は素晴らしく、今でも目に残っています。週一回の教室が不安と楽しさで一杯になり回を重ねるごとにお互い笑顔で挨拶を交わし、緊張も次第に解けました。十回の講習会が修了し知り合った仲間達と合気道を続けませんかと声を掛け合い入門、指導して戴いた先生と先輩の皆様にも今日も世話になっています。体調の悪いときや仕事で遅

くなった時でも稽古で顔を合わせ、合気道をやれる満足感は本当に、嬉しく思います。「継続は力なり」を目標として、しっかりと合気道精神に向き合っ



くないものとなり日々偶然の重みを感じております。先生と先輩方々のご指導に感謝を申し上げます。そして出会えた素晴らしい仲間にありがとうと言いたいです。入門から六年が過ぎ、初段を頂く事が出来ました。これからも合気道と自分を考える時、どう変化しているかを楽しみに日々稽古に姿勢を正し精進します。最後になりましたが合気道に出会えたご縁を大切にしていきたいと思います。